

I-10.社会的孤立のきざしの可視化に関する国内外の取り組み事例調査

Survey on the signs of social isolation

 キーワード	社会的孤立、孤独、社会的排除、サード・プレイス、ソーシャル・キャピタル
Key Word	Social isolation, loneliness, social exclusion, third place, social capital

1. 調査の目的

本調査は、国立研究開発法人科学技術振興機構社会技術研究開発センターにおいて、「社会的孤立」の予防に向けた新たな研究開発領域の具体化作業のエビデンスおよび参考資料とするため、社会的孤立のきざしの可視化に関する国内外の先行事例を調査し、事例リストにまとめることを目的とするものである。

2. 調査研究成果概要

(1) 調査の内容及び方法

まず、社会的孤立および関連する概念を調べ、その定義と相互の関係性を整理した上で、「社会的孤立」状態をとらえる概念やキーワードを検討した。

次に、社会的孤立に関連する既存の指標等を参考にしつつ、「社会的孤立のきざし」の可視化に取り組む事例等について、分析を行った。その際、指標上で大きく社会的孤立リスクが高まる閾値もしくは変化点をとらえている事例の有無やその内容についても調査を行った。事例の収集にあたっては、できるだけ多様な事例を捕捉できるように、対象とする社会問題を表すキーワードを洗い出し、検索に使用した。なお、海外事例に関しては、対象国は欧米を中心とし、検索に使用する言語は原則日本語および英語とした。また、実空間だけでなく、仮想空間も調査対象に含めた。

調査は、デスクリサーチにより進め、そこから得られた示唆を含めて報告書としてとりまとめを行った。

(2) 主な成果

① 類似及び関連概念の整理

「社会的孤立」の類似及び関連概念として、「孤独 (loneliness)」「閉じこもり (housebound/homebound)」「ひきこもり (hikikomori)」「社会的排除 (social exclusion)」「生きづらさ」「無縁社会」「ウェルビーイング (well-being)」「サード・プレイス (third place)」「ソーシャル・キャピタル (social capital)」をとりあげ、整理するとともに、それらの関係性についてとりまとめた。

その結果、現象として観測できる「社会的孤立」自体が問題というわけではなく、その本質的な側面の表れである「孤独 (loneliness)」やそれによって引き起こされる個人や社会への影響が問題とされていることがわかった。「無縁社会」とは、こうした「社会的孤立」が社会的に蔓延し、常態化しつつある状況を示すものであると言える。なお、この文脈においては、既存の社会的関係の維持や新たな社会的つながりの構築が政策的な焦点となる。そのため、新たな居場所としての「サードプレイス」や、関係構築の基盤としての「ソーシャル・キャピタル」の議論とも親和性が高いことが分かった。

また、「社会的排除」は、本人のコントロールの及ばないところで交流が絶たれている、交流

する意欲が剥奪されている要因（貧困等）の存在を示唆するものである。すなわち、「社会的孤立」や「孤独」を引き起こしている構造的な問題に着目した概念であり、政策としては多面的なアプローチが必要になるといえる。

②「社会的孤立」を測る指標

「社会的孤立」におかれた状態、すなわち、「客観的に人との交流が乏しい」状態をどのように測定するのかについては、これまでのところ標準的な方法は確立されておらず、どの程度の交流の乏しさから社会的孤立と捉えるべきかのカットオフポイントについても明確な理論的、統計的根拠があるわけではないことが分かった。また、構造的、機能的、質的側面といった多次元アプローチで捉えることが必要とされている状況が明らかになった。

③「社会的孤立」を引き起こす要因

要因に関しては、大きく分けて、社会の階層構造に着目したものと、ライフコースで起こりうるイベントに着目したものがある。前者には、「社会的排除」など構造的な要因が含まれる。ただし、原因と結果の関係が一意には定まらず、因果の経路が非常に複雑であることが指摘されていることが分かった。

④「社会的孤立」がもたらす影響

「社会的孤立」や「孤独」がもたらす負の影響としては、健康に与える影響が多くの研究において指摘されている。社会的孤立が主観的な孤独を伴うかどうかにかかわらず、喫煙や肥満、ほとんど体を動かさない生活様式や高血圧と同程度に死亡リスクに大きな影響を与える可能性があることを指摘する研究もある。また、「社会的排除」を射程にいれて捉えると、「社会的孤立」や「孤独」は個人にもたらされる影響だけではなく、機会均等といった社会正義に関わる影響、社会的連帯の喪失といった社会全体の活力低下に関わる影響等についても考慮すべきものとなることが分かった。

⑤「社会的孤立」に関する対策(公的秩序及び市民的秩序)

「社会的孤立」や「孤独」、及びその背景にある「社会的排除」に関しては、官民よらず多様な対策が検討されているが、これらは大きく2系統に分けて考えることができる。

まず、「人々が保持している社会的関係の質及び量と望んでいるものとの間にあるミスマッチ」を解消しようとするものである。そこでは、既存の社会的関係の維持や新たな社会的つながりの構築が政策的な焦点となる。UKを含め、「社会的孤立」や「孤独」の問題として近年取り組まれている政策等はこの系統のものが多い。

もう一つの系統は、「本人のコントロールの及ばないところで交流が絶たれている、もしくは交流する意欲自体が剥奪されている状態」を改善しようとするものであり、「社会的孤立」や「孤独」を引き起こしている構造的な問題に取り組むものである。「社会的排除」の問題としてこれまで取り組まれてきたものの多くがこれに該当する。

これらの取り組みは両輪としていずれも欠かすことのできないものであると言える。

本人のコントロールの及ばないところで交流が絶たれている、交流する意欲が剥奪されている要因（貧困等）の存在とそれへの対処

「人々が保持している社会的関係の質及び量と望んでいるものとの間にあるミスマッチ」の解消



個人またはグループが社会的、経済的、政治的生活に完全に参加し、彼らの権利を主張することを妨げるプロセス及び状態

（ある個人について）家族や地域社会との交流が、客観的にみて著しく乏しい状態

仲間づきあいの欠如あるいは喪失による好ましからざる感情（主観）

出典：未来工学研究所作成